

令和6年度 福井県立美方高等学校 学校評価書

R7. 3

項目	重点目標	具体的取組み	成果と課題	改善策・向上策
中高一貫教育	・探究活動を軸にした教育活動の連携促進 ・連携生(中・高)の先進的な学びの場の設定	①異校種交流による探究活動充実へ向けた教育課程の検討 目標:学校間交流活動10回以上(報告会・協働研究含む)	昨年度に引き続き、英語と数学の乗り入れ授業は2月まで行い、発展的学習や先取り学習を積極的にすすめている。また1月～3月に本校で中3連携生徒に対し5回の特別授業(英語・数学)を実施した。このように先取り学習によって連携生徒の高校1年生での英数の高1ギャップをなくし、ゆとりを持った授業ができるように工夫をしている。このゆとりを利用して探究学習を推進し、校外研修や地元中学校、および美浜町小学校との探究学習を通した連携を推し進めており、連携クラスの一つの魅力としている。 研究委員会は、今年度6月に両町教育長、両町小学校代表校長、高校教育課担当等に参加をいただき、取組み・予算面等について理解をいただくことができた。3月の第2回は昨年同様開催せず資料配付のみとした。 今年度部活動での交流は、野球部、陸上部、剣道部やバレーボール部などで合同練習等を実施できた。	R6年度美方高校1年連携クラス生徒の本校への入学割合は29／51名(57%)、R7年度の入学割合は29／57名(51%)となった。R4年度以降、高校での連携単独クラス編成をし連携クラスのアドバンテージが明確になったことが本校の特色ある学校づくりにつながっている。そのために本校の連携生徒を学校のリーダーとしても丁寧な指導で育成し、生徒自身が連携生徒であることに満足できるようにしていく。 また、探究学習における連携は、1年Rホーム、2年Tホームを中心に美浜・三方・上中の三中学校と進めている。今後も美方高校の探究学習発表会を中心に、連携中学校の連携生徒に参加してもらい交流をしながら、美浜町の取り組みでは小学校との連携も加えながら、探究学習での交流を深めていきたい。
		②国際交流・校外研修・校外発表等、視野を広げる活動の場を設定 目標:国際交流活動の実践2回以上、校外研修5回以上、校外発表本数のべ50本以上	国際交流活動については、2年Tホームが台湾研修旅行で東呉大学日本語学科と交流を行った。探究活動の発表とそれに対する意見交換をすると共に、日本と台湾の文化の違いを話し合い、国際的視野広げることができた。 校外研修や校外発表本数については、目標を達成することができた。特に、校外での発表本数については、昨年同様に三方中、美浜中および上中中に連携生を派遣して研修内容の発表を行うなど、探究学習以外の連携も含むことができた。	今年度同様、先取り授業の利点を生かし、余裕をもって探究学習および研修内容の発表など、連携生徒自身による交流活動を行い、生徒の生の声を連携する三中学校に届けていきながら、連携クラスのアピールをしていく。 R6年度に初めて実施できた海外研修旅行を参考に、より生徒の国際感覚を養うことができる交流活動の模索や相手先との交流の工夫をしていきたい。
教育課程 学習指導	○主体的・対話的で深い学びへ向けた授業改善の促進	観点別評価方法の再検討や教材の工夫等の協議を通して、自身の授業を省察 目標:「授業内容を理解できる」とする生徒の割合80%以上	授業における観点別評価の構築、各教科で評価方法の研究を行い、生徒への指導を「十分」または「おおむね」行ったとする教員は96%(昨年100%)であった。外部講師を招いたり、外部の中高教員に来ていただいたりして授業研究を行った。また、観点別ABC評価の研究も各教科で継続して工夫している。 授業内容を「ほとんど」または「おおむね」理解できているとした生徒は92%で昨年より2%減少した。目標(80%)は達成したが、全学年で「あまり理解できていない」が27名(昨年より2名増)、「ほとんど理解できていない」が2名(昨年0名)であった。授業内容を理解度できない生徒の割合が若干増加しているので、より個々を大切に丁寧な支援がさらに必要である。	新学習指導要領で言及されている「対話的で深い学び」の実現や新しい入試に関する研究をさらに進め、効果的に学習内容、学習方法が提示できるよう、各教科、進路支援部等との連携を強化していきたい。外部講師を招聘しての授業研究だけでなく、教員相互の授業参観を積極的に行って授業改善を行い、また、教科横断型の授業も模索して教育効果を上げていくようにしたい。 授業を丁寧に行うことはもちろんのこと、理解度が低い生徒および習熟度の高い生徒の個別支援を継続することが重要である。生徒一人ひとりの能力に応じた課題提示を行ったり、生徒自身に振り返りをさせ、それを教員が把握したりして、個別に支援していく必要がより一層求められる。
	○生徒個々の理解度に応じた学習支援体制の強化	学習アプリの有効活用、自主学習機会の設定 目標:学習アプリ等を活用した実践3回以上	本校の学力向上の取り組みについて、約88%の保護者が「満足」「おおむね満足」と答えており目標は達成した。 ICT機器を用いて授業を実施したり、課題等を提示(GoogleClassroom、スタディサプリ等の活用を含む)することが「十分」または「おおむね」できた教員96%(昨年86%)と、目標を達成した。より一層研究を進めていきたい。 次に、タブレット等を授業や探究活動および自主学習で活用できた生徒は、「十分」、「おおむね」活用できた生徒が94%(昨年93%)で目標は達成した。しかしながら、「あまり活用できなかった」が5%(昨年6%)、「ほとんど活用できなかった」が1%いることは今後の課題である。個々の学習支援を丁寧に行うことを目指してICTをうまく活用しながら、生徒の学習支援をさらに構築していくことが必要である。	タブレットの活用が進み、生徒の授業への取り組みがより主体的になってきているように感じる。教員側の活用も含めて、より一層の研究が必要である。単に答えを求めるだけでなく、観点別評価とも関連して、課題の種類を「知識・技能」を問うものと「思考力・判断力・表現力」を問うものを意識してバランスを考えて課題設定をすることが大切である。さらに、より深く考えながら学習に取り組めるよう工夫し、より深い学びになるように課題設定するよう努めていくようにしたい。 また、授業や探究活動での活用の場面をしっかりと設定して、より深い学びができるようにさらなる改善を図る。
	・ICT活用による業務の効率化を図る	・ICT環境の整備・利用促進を図る。 目標:教職員の情報環境に対する満足度80%以上	ICT環境(ハード・ソフト両面)については、「満足」、「おおむね満足」とした教員が88%(昨年89%)と、目標を達成した。一方で、機材等の故障等への対応に対する予算が確保されにくい現状があるのが課題である。	現在あるICT環境の満足度が高いという結果にとらわれることなく、より一層改善できる点がないかを考えていく必要がある。

令和6年度 福井県立美方高等学校 学校評価書

R7. 3

項目	重点目標	具体的取組み	成果と課題	改善策・向上策
生徒支援	・基本的生活習慣の確立を図る	①時間管理の習慣作りに努めさせる 目標：保護者の生徒の生活習慣に対する満足度80%以上	基本的生活習慣のうち、規則正しい生活を送れているかという点について、「送っている」または「おおむね送っている」とする割合が、教職員から生徒を見た場合は96. 2%、生徒が自分を評価した場合は86%、保護者から生徒を見た場合は84%となった(目標はいずれも80%)。保護者から見た割合が最も低いが、生徒、保護者ともに一昨年よりかなり上がっている。コロナウィルス感染症が落ち着いたため、学校や家庭での生活規則正しくなったとともに、各家庭でのご指導が効果を上げていると考察される。スマホやSNSの利用に関してはまだまだ課題は多く、今後も、情報リテラシーについて多方面から指導していく必要がある。	一昨年度以降、新型コロナウイルス感染症一過により、学校・家庭生活ともに平常に戻ってきたことが、子供たちの基本的生活習慣の安定に大きく影響している。日々の生活時間が規則正しいものとなり、学校行事や各大会、外部でのイベントなどが従来通りに実施され、目標を持ち、計画的に生活を送ることができているという考察ができる。各家庭での力強いサポートとともに、校内においても「自主的な時間管理」という観点から、起床・就寝・家庭学習・スマホの正しい使い方等に留意するよう、今後も継続して改善を呼びかけていきたい。特にSNSを介した悪質な情報や勧誘について、担任だけでなく、外部からの講師や学年会、生徒支援部の働きかけにより、生徒が被害者や加害者にならないよう、より適切な支援を施せるよう努力していきたい。
		②学校行事に主体的に取り組ませる 目標：生徒の学校行事への満足度80%以上	学校行事に関しては、「満足している」または「おおむね満足している」生徒が、全体で95%(1年生の95%、2年生の94%、3年生は97%)と昨年度と変わらず大変高い数値であった。従来以上にそれぞれの行事の内容が効率的にコンパクト化され、生徒自身が主体的に計画し、積極的に参加し、無駄なく大いに楽しめた結果であったと思われる。今後も、生徒の主体性を生かした行事運営をサポートしていきたい。	すべての学年で満足度が昨年度と同様に高いことから、生徒の学校行事への期待が大きく、積極的に参加し、達成感が得られたことがうかがえる。特に学校祭においては、熱中症対策の観点からも、内容を精選し無駄がなく効率的なものになるよう、企画・立案する姿が確認できた。生徒会執行部員などをリーダーとしながらも、各自が自分のこととして、主体的に参加し、将来の自立した生き方の基礎となるような体験ができるよう支援していきたい。その意味でも、従来の学校行事の内容や形態を、生徒の意見を踏まえながら改良、刷新していきたい。
	・心身の健康および安全や相談体制の充実	③心のLTや保健委員会活動などを充実させ、健康管理意識を高める 目標：生徒の健康管理意識が高まった割合90%以上	生徒の、心のLT(ストレスについての講演)や「保健だより」(感染症対策・熱中症対策)等を通して心身の健康について関心が「大いに高まった」または「おおむね高まった」とする回答が 87. 2% と昨年の 89. 5% を少し下回り、目標(90%)を達成することができなかった。 「心のLT(ストレスについての講演)」では、本校のスクールカウンセラーからストレスに負けずに対処する方法について講演を聞き、自分に合ったストレス解消法見つけていくことが大切であることを学んだ。 感染症対策・熱中症対策については、状況に合わせて、「保健だより」を発行している。 健康管理については、健康に気をつけて生活することが「常にできている」、または「おおむねできている」とする回答が、生徒91%(昨年度92%)と、目標値(90%)を達成した。	わずかながら減少し、目標を下回った。保健だよりを掲示・配布する際、各ホームで保健委員が内容を伝える等、生徒同士のコミュニケーションを取り入れた発信にしていく。新年度から導入する連絡システムも活用し、保護者への発信にも努める。 新型コロナウイルス感染症の対策を始めて5年目となる。今年度はマイコプラズマ・インフルエンザ・新型コロナが同時期に発生し、生徒・教職員で情報と危機意識を共有して対応した。一斉指導ではなく、個々の生徒が、感染状況と活動場面に応じた対応ができるように支援が変わっている。生徒達が自分の健康を自分で守る意識を育てるよう、わかりやすい情報提供に努める。感染症情報を日々更新し、生徒・教職員・保護者と学校全体で共有し、教育活動と感染予防を両立できるよう支援していく。 来年度も ST・LTの時間や「総合的な探究の時間」を利用し、自分の心身の健康や命について考える時間を確保していく。また、学年会・体育科・他部署と連携を密にして、効果的な内容を精選し支援を進める。
		④整美・保健委員会の活動や清掃活動を充実させ、安全意識の向上に努める 目標：生徒・教職員の取組に対する満足度90%以上	教職員の、担当場所の安全管理について「危険等を予測し、徹底して点検している」または「危機等を意識し、点検している」が100%(昨年度90%)であり、目標(90%)を達成した。 今年度も教員対象の安全点検(月1回)を行っている。それらの情報をもとに、危険箇所・不良箇所の発見・改善につなげた。また、3学期には整美委員会によって生徒対象の安全点検を実施する予定である。	全教職員の協力で、清掃活動が円滑に行われている。さらに、生徒が自ら主体的に清掃活動や美化活動に取り組む姿勢を育てる支援が必要である。まずは日々の清掃活動で根気強い支援を行っていく。ホームごとの「奉仕LT」は主体的に取り組む態度、奉仕の心を育てる場となっている。今後もこのような整美・保健委員会の活動を充実させて、生徒が清掃活動に主体的に取り組む成長の場を作っていく。
		⑤快適度・いじめアンケートを生徒理解に役立てる 目標：教員における、アンケートの有効性に対する満足度80%以上	「役立っている」・「おおむね役立っている」が合わせて96%となり、昨年度より3%上昇し目標の80%を大きく上回る結果が得られている。生徒の本音を語ることへの抵抗を少しでもなくし、アンケート結果がうまく生かされるよう、アンケートの質問内容を吟味し改良した結果であると考える。また、担任・副担任が、アンケート結果を基に生徒との直接的なかわりを増やした結果であると考える。今後も生徒各自の内面の変化や周囲の人との関わり方について、敏感に気づき対処できるよう工夫していきたい。	昨年度に続き、アンケートの内容や実施時期を変えたことで、生徒の内面や現在抱えている問題により近づくことができたことを成果と考えたい。今後も生徒の実態を把握しながら、臨機応変に内容や時期を工夫しながら調査を続けていきたい。また、担任の意見や要望を踏まえながら、アンケート以外の調査や生徒の実態を把握する方法を模索したい。同時に、生徒との直接的な対話の時間が確保できるよう、校務などの効率化にも努力したい。
		⑥「面接週間」を生徒理解に役立てる 目標：教職員における、面接週間の有効性に対する満足度80%以上	「役立っている」・「おおむね役立っている」が昨年度に続き100%となり、目標の80%を大きく上回る結果が得られた。生徒の抱える問題は年々複雑になり、相談内容も多様化しており、個別に対応しアドバイスすることは困難を極めている。そのような中、根気よく直接生徒と対面することで、信頼関係を構築しながら、生徒一人一人にとってより効果的な面接ができるよう、今後も時間の確保と相談体制の確立に努力していきたい。	担任一人が問題を抱え込まないように、また、生徒への助言が偏らないよう、プライバシーを確保しながら、学年や学校全体でサポートできる体制を確立したり、面接がより効果的に実施したりできるよう、教職員を対象とした教育相談研修会を今後も継続して実施していきたい。

令和6年度 福井県立美方高等学校 学校評価書

R7. 3

項目	重点目標	具体的取組み	成果と課題	改善策・向上策
進路支援	・キャリア教育を推進し明確な進路目標を持たせ、個々の進路実現に努めさせる	①進路行事を通じて職業観の育成と進路目標の明確化を図る 目標:「進路目標を持てた」割合85%以上 :進路指導の取り組みに対する生徒・保護者・教職員の満足度90%以上	担任が「ホームの80%以上の生徒に学年に応じた進路目標を持たせることができた」と答えた割合は71. 4% (前年92. 9%)、生徒が「明確な進路目標を持つことができた」または「明確ではないが進路目標を持つことができた」と答えた割合は82. 8% (前年91. 0%) で、ともに前年度を下回った。(内訳は、1年66. 9% , 2年85. 1%、3年98. 2%) 保護者が「子どもが明確な進路目標を持っている」または「明確ではないが進路目標を持っている」と答えた割合は全体の82. 6% (前年75. 6%) と前年度を上回り、目標85%に近づいた。 推薦入試や2次試験等の個別指導を「きめ細かく十分に」または「おおむね十分に」行ったとする教職員は95. 7% (前年92. 9%) であった。進路実現に対して「積極的に」または「おおむね積極的に」取り組んだ3年生の割合は、91% (前年93. 7%) であった。進路実現に対する本校の取り組みについて、「きめ細かく十分に」または「おおむね十分に」行われていると考える3年生保護者の割合は91. 0% (前年88. 5%) であった。	進路調べにとどまらないで、探究活動を通じて進路を考えさせるというアプローチを引き続き推進していく。2・3年生の自己評価は目標値を上回り、保護者の評価も目標値に近づいている。今後も、保護者の意見を収集しつつ、進路情報の発信に努めたい。 3年生への個別指導は、今年度も学校全体で取り組み、高い成果を上げている。今後もきめ細かい指導を実施し、3年生の進路希望の実現を支援していく。特に、総合型選抜の受験生徒の増加が見込まれるため、志望理由書や小論文の指導を丁寧に行っていきたい。 3年生への進路支援はおおむね目標を達成しているが、12年生に対する進路目標の明確化について見直していきたい。
	・自ら課題を発見し主体的協働的に探究する力の育成を図る	②総合的な探究の時間の指導を充実させる 目標:生徒・教職員の満足度90%以上	探究活動に「積極的に」または「おおむね積極的に」取り組んだ1、2年生の割合は97. 8%で昨年同様に高い満足度を示している。どの学年も自らの興味関心に基づく課題を設定して、主体的かつ協働的に取り組む様子が見られた。中学生や地域で働く方々、大学教授などの外部講師を招き、校内校外での発表を体験したことも、活動の質を高める機会となった。大学や地域の専門機関とのつながりを強化し、校外の発表会に参加する機会を増やしているため、探究学習の質的向上につながっていると考えている。	探究学習の支援のため、教員間での連携がいつそう求められる。担任、副担任間の連携、学校全体の協力体制の充実に努めていく。発表会の直前に、まとめた時間を確保してもらっているが、より見通しを持った学習計画を立案していきたい。
	・生徒により多くの書物を読ませ、広い視野と豊かな心を育む	③書物に接する機会を増やし、貸し出し冊数の増加を図る	図書室の蔵書については、生徒の希望や話題の本を取り入れて充実を図っている。学校祭や図書まつり等のイベント企画が好評であった。本年度に図書室を5回以上利用した生徒は38. 4%と前年より増加したが、目標値に到達していない。読みたい本がライブラリーに充実しているという回答は83. 6%で前年同様に高い満足度を示している。 授業・LT・ST等を利用した読書指導が「十分できた」または「必要に応じてできた」と考えている教職員の割合は80. 0%で、目標を達成することができた。	入学当初の図書オリエンテーションで図書室利用や読書活動について周知し、授業での読書指導や委員会活動(図書だより発行など)を通して、読書活動を増やしていきたい。 本年度同様に、生徒の読みたい本や話題の本を取り入れるように努め、授業やLTにおいて「おすすめの本」を紹介する等して、読書への興味関心を喚起したい。 図書まつりなどのイベント企画、学科や部活動と連携しつつ文化的な企画を取り入れ、図書室の利用促進につなげたい。授業の図書室活用について各教科と連携を進めていきたい。
地域連携 保護者連携	PTA、同窓会、後援会活動の充実等による学校教育活動の周知	①学校からの連絡を全ての保護者が把握できるよう取り組む 目標:学校からのメール通知確認100%	アンケートに回答された保護者全員が学校からの連絡メールを受信できていることが分かった。	メール通知が保護者全員に届いているので、同様のシステムをこれからも確保したい。
		②PTA広報誌「湖声」を発行し、生徒の様子を保護者に伝える 目標:湖声に対する活動の分かる度80%以上	PTA 広報誌を読んだ保護者の 86.8% (158/182) が、「生徒の活動の様子が分かる」または「おおむね分かる」を選んでおり、目標を達成したことが分かった。□ その一方で、保護者の 24.8% が「受け取っていない」「発行されていなることを知らない」を選んでいる。PTA 広報誌をより多くの保護者に届けることが課題である。	新しい連絡システムを構築し、広報誌が全ての保護者に届くよう運用したい。
		③ホームページ等により学校教育活動を周知する 目標:「学校の魅力を発信できた」と考える割合80%以上	教員の 88.0% が美方高校の魅力発信が「十分にできた」または「必要に応じてできた」を選んでおり、目標を達成したことが分かった。 「やり方が分からない」を選んでいる教員が、3人から1人に減り、教職員のほぼ全員が本校の魅力発信に関わっていると言える。	生徒の意見も参考にしながら、魅力発信の方法や内容を継続して充実させたい。

令和6年度 福井県立美方高等学校 学校評価書

R7. 3

項目	重点目標	具体的取組み	成果と課題	改善策・向上策
家庭学科	・専門教科に関する知識・技術と探究心を培い、社会の中で生かす実践的態度の育成に努める	①専門教科の学習に関心を持ち、各種検定やコンクールなどに意欲的に取り組ませる 目標：専門教科の学習や各種検定、コンクールなどに意欲的に取り組んだ生徒が90％以上	専門教科に対して、「意欲的に取り組むことができた」・「おおむね意欲的に取り組むことができた」をあわせて約99％と目標（90％）を上回ることができた。大半の生徒が、専門教科に対して意欲的に取り組んでいることが分かった。	「意欲的に取り組めた」の回答が増えるよう、今後も各科で教材研究や指導方法を工夫していく。また、割合としては少ないものの、「あまり意欲的に取り組むことができなかった」「意欲的に取り組むことができなかった」と回答した生徒もいることから、生徒への個別対応にも力を入れていきたい。
	・学科の特色ある活動を展開し、地域との連携を深める	②校外活動を通して、積極的に地域と関わることのできる生徒を育てる 目標：地域の行事や校外活動に積極的に取り組んだ生徒が90％以上	校外活動に対して、「意欲的に取り組むことができた」・「おおむね意欲的に取り組むことができた」をあわせて約98％と目標（90％）を上回ることができた。大半の生徒が、校外活動に対して意欲的に取り組んでいることが分かった。	今年度インターンシップが実施できた2年生については回答した全員が意欲的またはおおむね意欲的に取り組めたとしている。今後も様子を見ながらではあるが校外での活動の場を増やし地域とのつながりも深めていきたい。
業務改善	・分掌業務内容のゼロベースでの見直し	各分掌での業務改善提案を定期的に部長間で協議する場を設定	各部署での業務改善の検討機会について、設けることができたと答える教員が84％となった。校務分掌の見直しも2年目となり、落ち着いて業務に取り組むことができた。	各部長を中心に、業務改善の提案に基づき、改めて見直しを掛けていく。
	・業務の共有化・情報化促進および学びの個別最適化を図るための研究体制の構築	各種会議のペーパーレス化および個別最適化に向けた協議の促進	修正が必要な月予定などの項目以外、職員会議のペーパーレス化ができた。 個別最適化に向けた協議は積極的に開催できなかったが、ICTやスタディサプリなどを使って授業の工夫は概ねできていた。	PCや校務システムの変更に合わせ、より業務がスムーズになるよう全体を見直ししていく。 スタディサプリの更なる活用など、個別最適な学びに向けた協議を継続していく。